



自治体・姉妹都市交流

園田 茂人（東京大学東洋文化研究所）

報告の流れ



1. はじめに

自治体・姉妹都市交流に注目する理由

2. この四半世紀の変化

1996年調査の結果との違いを探索する

3. 交流の長さが生み出す違い

交流の開始時期によって異なる特徴を分析する

4. 将来展望を規定する要因

交流の将来展望を規定する要因を探索する

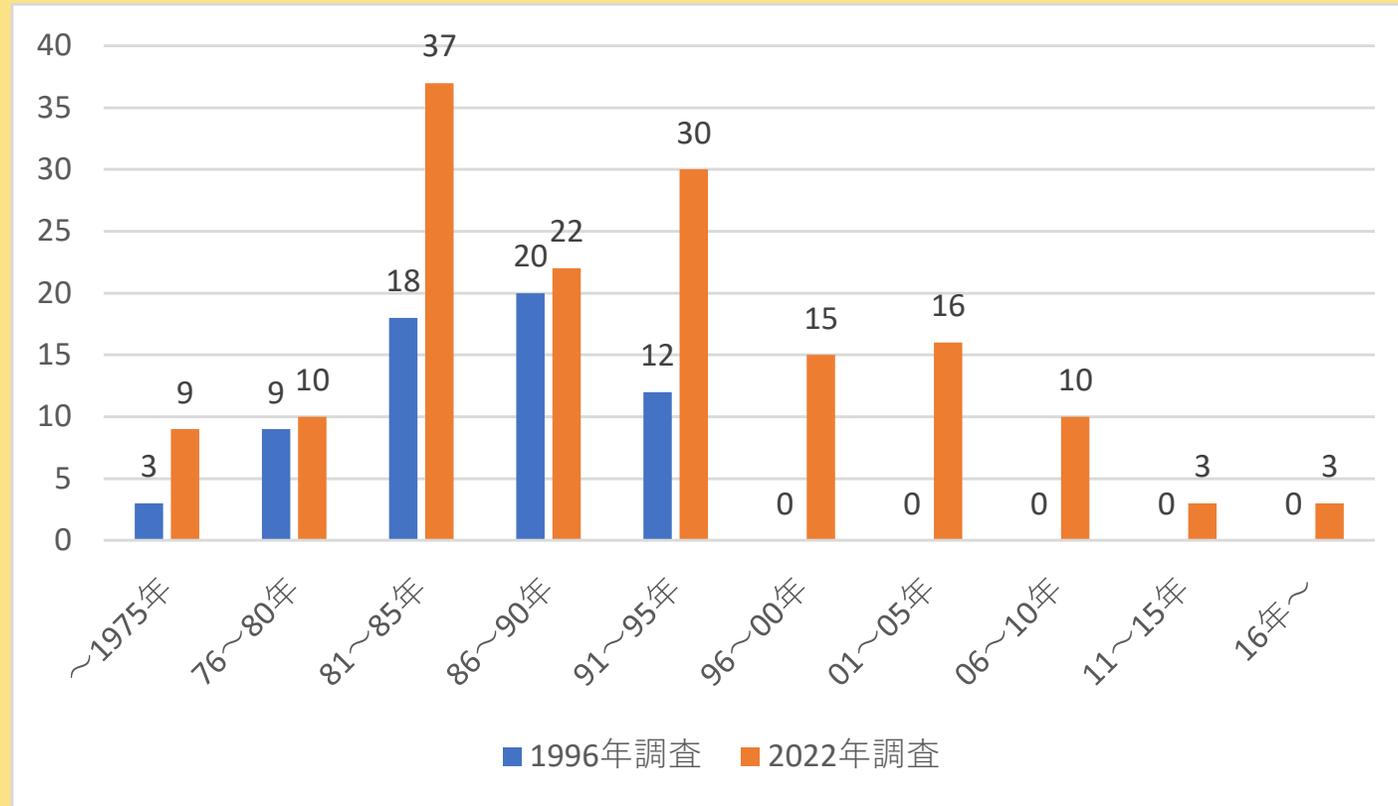
5. おわりに

要約と議論

1. はじめに

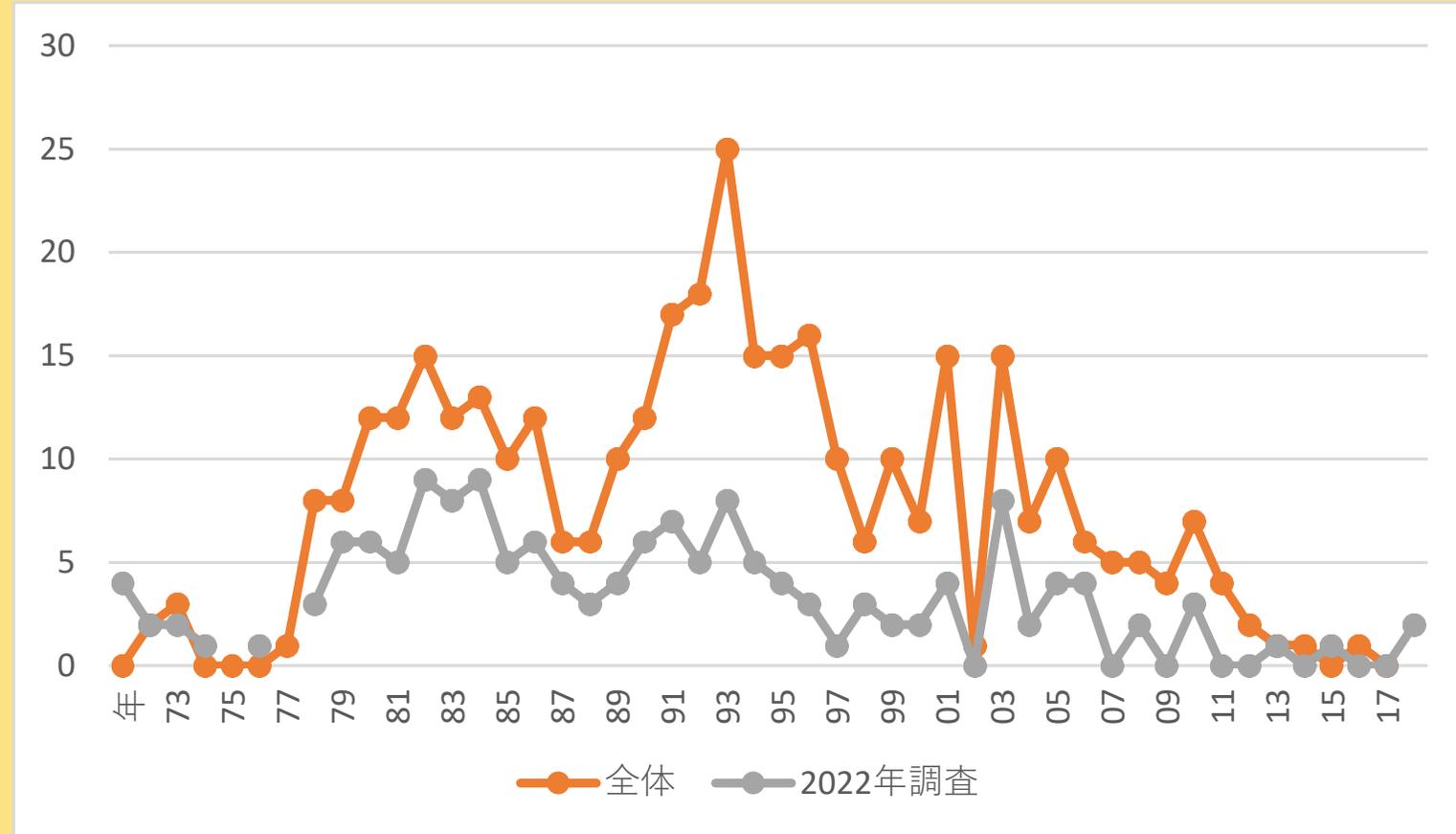
- * 自治体交流をめぐる日中の「思惑の違い」：では現状はどうか？
- * 1996年調査の存在：比較ができる利点を最大限に利用する（**図1**）
- * 比較的回収率が高かった自治体サンプル（**図2**）：一般化のための障害の少なさ

図1 1996年調査と2022年調査のデータ： 交流開始年に見る違い



(注) 1996年調査のデータは『日中交流実態予備調査報告書』による

図2 活動開始のタイミング別に見た姉妹都市交流の分布：全体と2022年調査の対比



(注) 全体のデータは ((一財) 自治体国際化協会北京事務所, 2019:4) による

2023年12月4日

2. この四半世紀の変化

*総じて肯定的な評価が支配する交流への評価（図3）

*対照的に交流の展望については意見が分化するように（図4）：
なぜそのようなことが起こったのか？

*交流を行う上での困難に見る変化（図5）

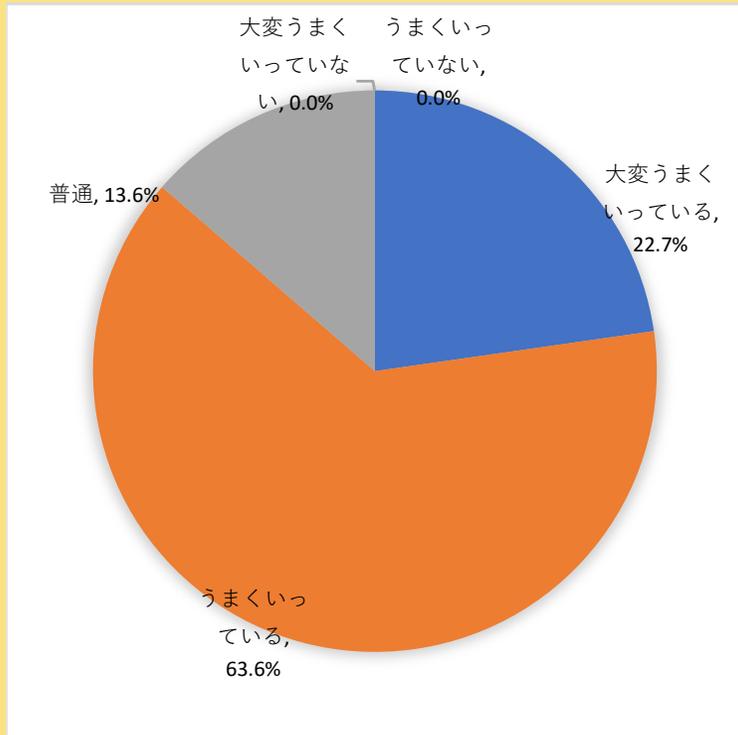
／財政的な負担感の軽減

／重みを増す意思疎通の重要性

／交流人材の高齢化と不足という新たな局面

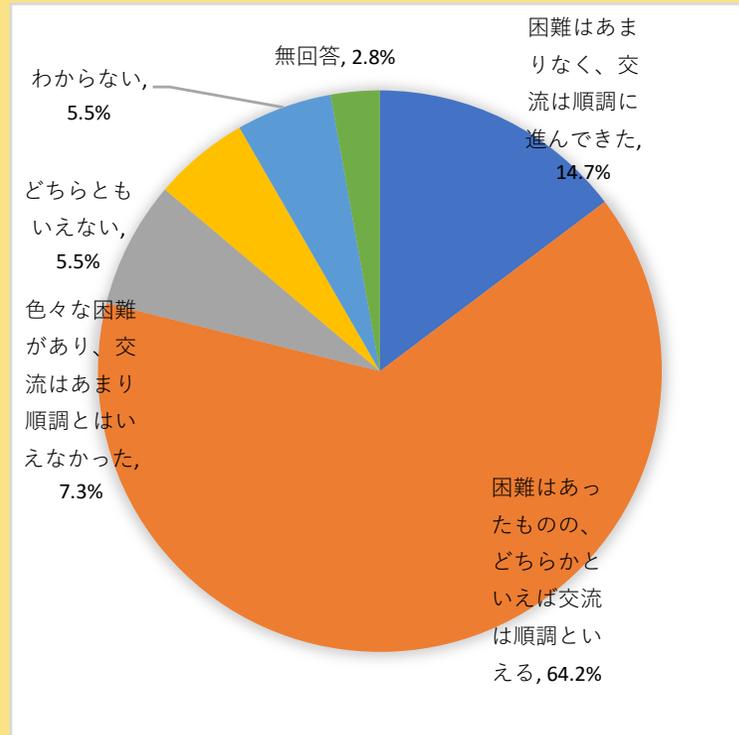
図3 交流に対する評価

(1) 1996年調査



N = 66

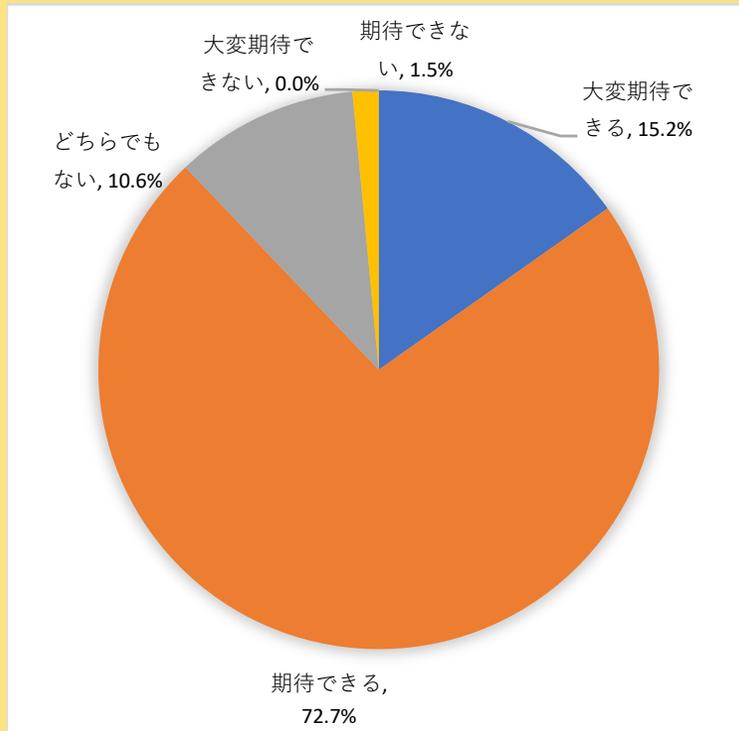
(2) 2022年調査



N = 109

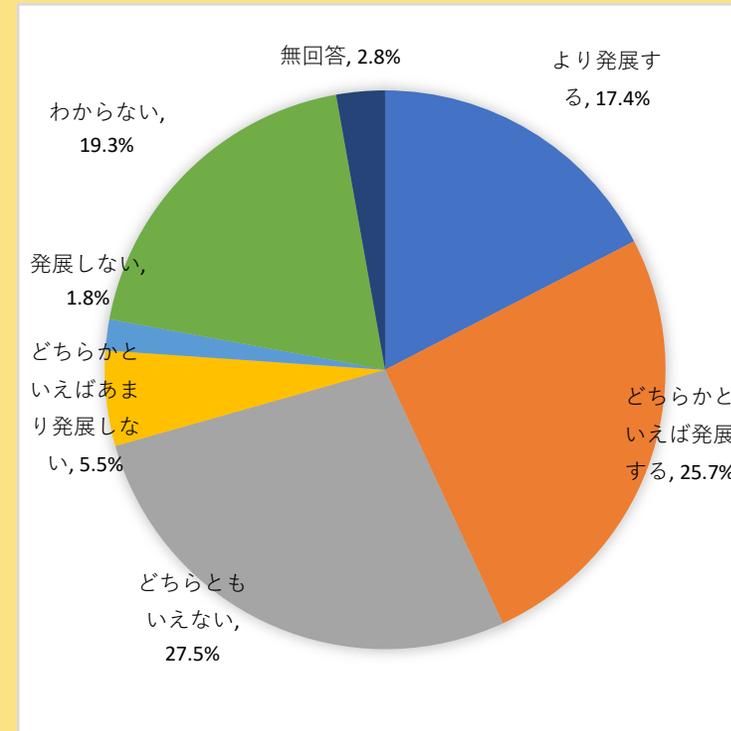
図4 交流の展望に対する評価

(1) 1996年調査



N = 66

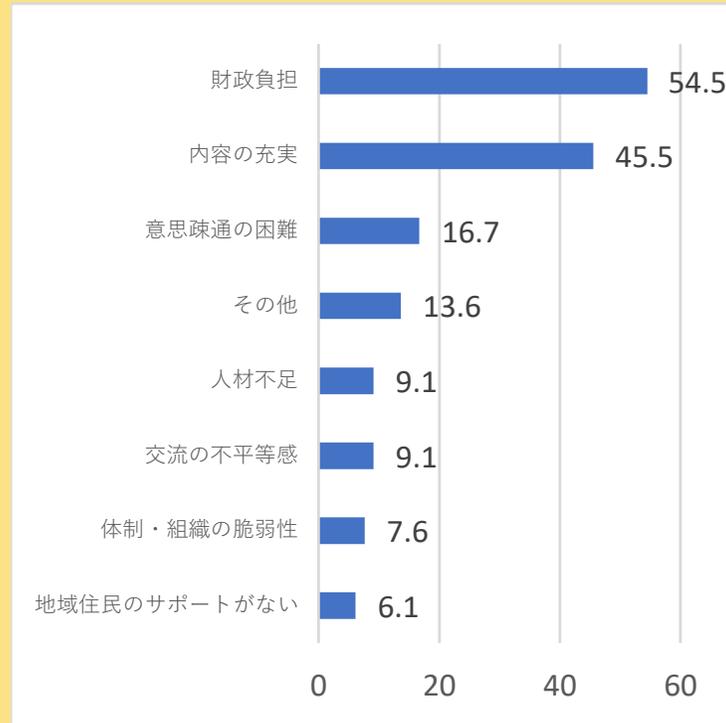
(2) 2022年調査



N = 109

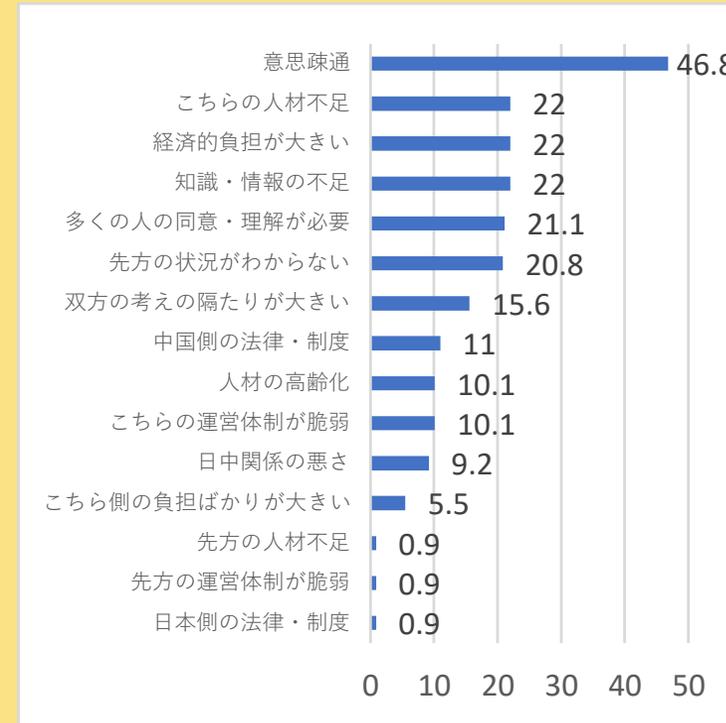
図5 交流を行う上での困難（単位：％）

(1) 1996年調査



N = 66

(2) 2022年調査



N = 109

(注) 多選択式のため、合計は100%を超える

2023年12月4日

3. 交流の長さが生み出す違い

*1996年以降に交流を始めた自治体には、どのような特徴が見られるのか？

／特定活動への特化傾向（**図6**）

／分化する交流への全般的な評価（**図7**）

図6 開始時期別に見た交流活動の有無

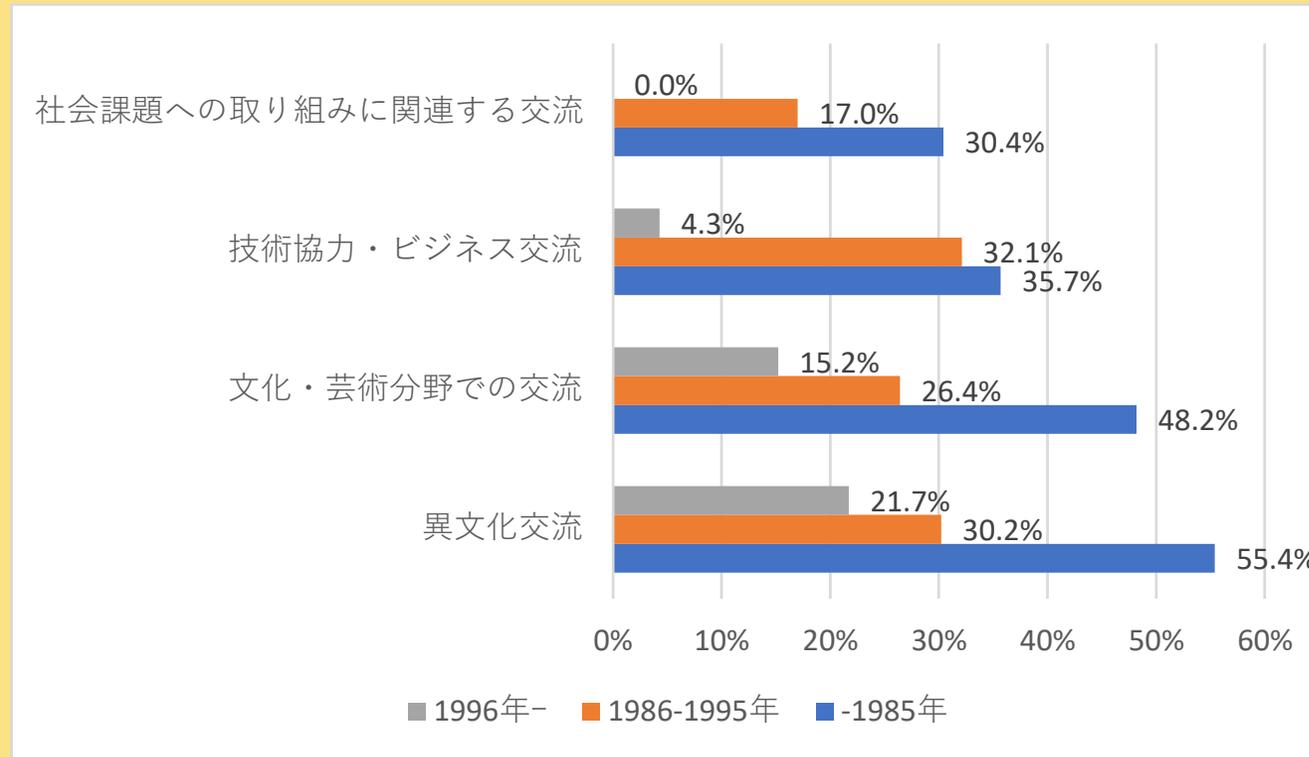
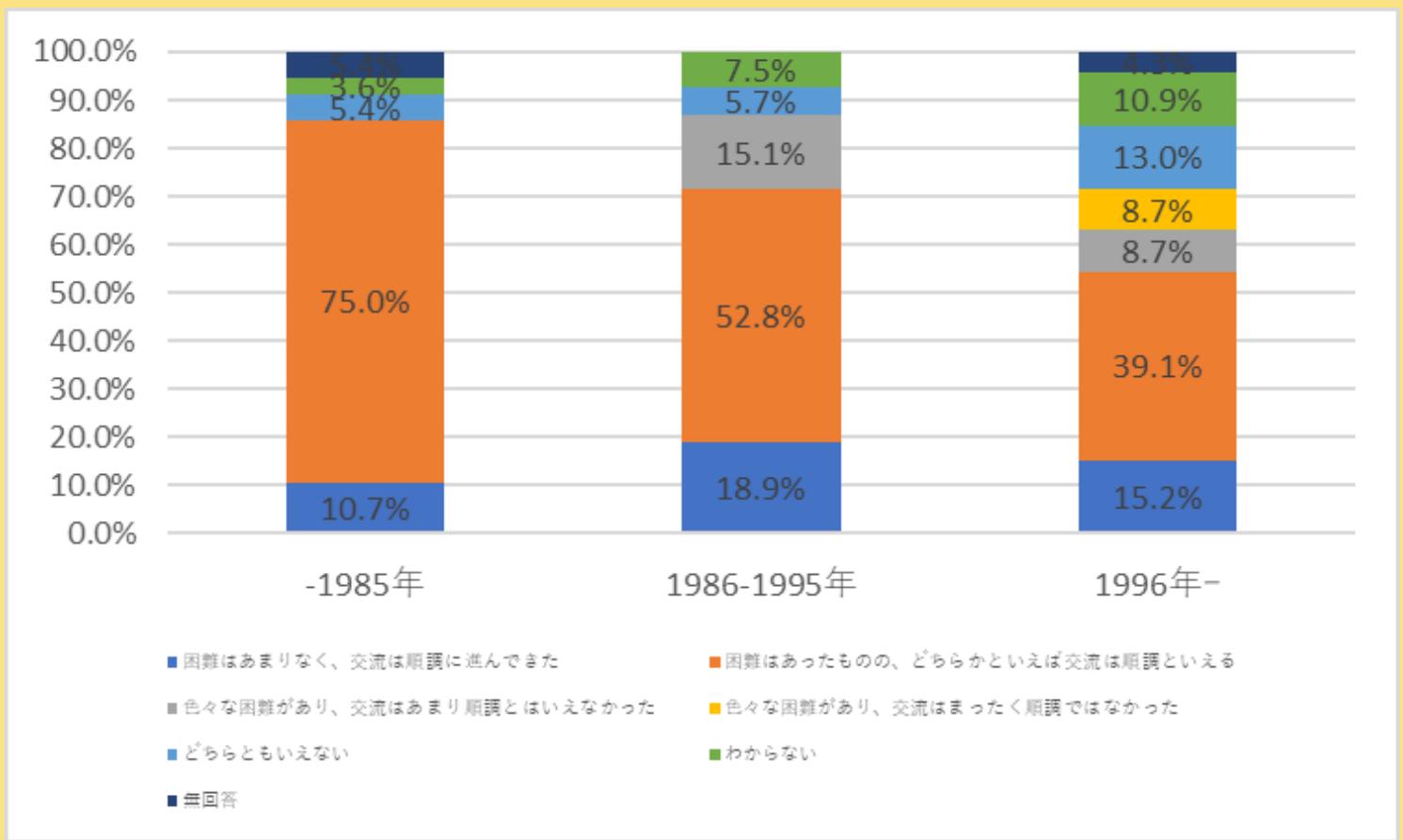


図7 開始時期別に見た交流に対する全般的な評価



4. 将来展望と関連する要因

*交流時期とは相関しない交流の将来展望：関連する要因は何か？

- ／友好・親睦交流への評価（表1）
- ／交流に対する全般的評価
- ／中国に対する印象
- ／交流の継続意欲

*1996年を分岐点とした団体にみる異なる特徴：交流継続の累積効果？

表1 友好・親睦交流への評価×交流の発展が展望できるか

	それ以外	発展する
十分に達成できた	9.0%	33.3%
それなりに達成できた	57.7%	59.6%
どちらともいえない	11.5%	7.0%
そこまで達成できていない	5.1%	
まったく達成できていない	1.3%	
わからない	15.4%	

$\chi^2 < .01$

5. おわりに

*聞き取り調査によって明らかになった「地域内資源」の違い：
高齢化による衰退か、新しい交流意義を見つけた発展か

*2022年10月12日の「日中友好都市の協力深化に向けたフォーラム」が示唆する現実